

分 かる と 快 感 !

# Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

## 漢字はどのように広まった?

(東京大学 2020年 日本史)



次の文章を読み、奈良時代のこの都や地方の役所から「千字文」「論語」などの文章が書かれた木簡が出土する理由を説明しなさい。

(1)「千字文」は、中国で書聖と言われた王羲之の筆跡を集め、千字の漢字をつづって教科書として使用したもので、習字の手本としても使用された。日本には朝鮮半島を経由して伝わったとされる。

(2)中国の皇帝太宗は王羲之の書を好み、複製をたくさん作らせた。日本から渡った遣唐使はそれらを与えられ、持ち帰ったと考えられる。

(3)奈良時代のころの日本では、中央政府や地方の役人を育てるために教育機関が置かれ、「論語」が教科書として使われていた。教育機関には書博士がいて、書学生もいた。有力な貴族の家には書の手本を模写する人もいたようだ。

(4)奈良時代のころの日本では、6年に1回、役所で戸籍を3通作成した。また、地方から税として都に送られる布や特産品は、地方の役所で帳簿とつきあわせられ、納税者・品名・量などを記載した木簡をつけて都に運ばれた。



イラスト・瑞木匠

が多かったようです。今回の問題の「千字文」「論語」などが書かれた木簡は、比較的短期間だけ利用するメモ書きのようなものだったと考えられます。

### 役人に求められた力とは?

では、なぜ木簡に「千字文」や「論語」が書かれたのか、(1)から(4)の内容を読み取っていきましょう。(1)には「千字文」がどのようなものが記されています。一文字も重複せず1000の文字が使われた詩で、漢字の教科書や習字の手本とされました。(3)を読むと、「論語」もまた、役人を育てるための教育機関で教科書として使われたことがわかります。「論語」は紀元前500年ごろに中国で活躍した思想家の孔子とその弟子の言動をまとめた書物です。孔子の思想に基づく教えである儒教は、中国では国を支える重要な教えとされており、中国にならった国づくりを進めていた日本の政府やその役人にとっても、重要な教えでした。奈良時代のころの都や地方の役所から出土する「千字文」「論語」などの文章が書かれた木簡は、「千字文」で漢字や習字を、「論語」で儒教を学んでいた中央政府や地方の役人が勉強のために書いたもの、つまりみなさんが学校で学んでいる漢字の書き取りや、教科書の内容を記したノートのようなものだったのではないかと考えられるのです。

役人たちはなぜ、木簡に教科書の内容を書きとめ、勉強していたのか、その背景は(4)を読むとわかります。戸籍とは、何という名前の何歳の人物がどこに住んでいるのかを記録したもの

で、税を決めるための重要な文書でした。また、人々が税を納める際にも、帳簿とのつきあわせや荷札の木簡をつけるなど、文字を扱うことが不可欠でした。奈良時代のころの日本は、中国にならぬ、法律で国を治め、文書によって税の徴収など国のものごとを進めようとしていました。そのため、国を支える役人には漢字を読み書きする力が不可欠であり、漢字の書き取りや教科書の内容を記して学んでいたのです。

また、(2)にあるように、芸術としての漢字すなわち書道もこのころ中国から伝えられました。(3)にあるように教育機関には書道を教える人や習う人がいたり、貴族の家には書の手本をつくるための人がいたりしたようです。漢字をただ書くだけでなく、美しく書くことも、このころから始まり、今の書道につながっているのです。

奈良時代のころに漢字という文字が役人を中心に広く使われるようになり、そのあとの平安時代には、ひらがな・カタカナという日本固有の文字が誕生することになります。(Z会・河原井彩)

### 木簡はメモ書き?

問題文に出てくる「木簡」とは短めの文章を書いた木の板のことです。日本に漢字が伝わったころにはすでに紙も発明されていたのですが、紙が比較的高価だったことや、木簡は書いた後に削って再利用できること、紙に比べて木簡は耐久性があることなどから、用途に応じてどちらも使用されていました。おおまかに分類すると、長い巻物にすることができた紙は長期間保管する長い文章に、繰り返し利用でき壊れにくい木簡は荷札やかたんなメモ書きなどに利用されること



文字がないとどのように困るか、文字があるとどのようによいことがあるか、文字の役割を考えてみてもよいですね。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。